

## 「聾札」と「偽聾」

高橋和夫、末森明夫

### 1. 杜若艶色紫

『歌舞伎脚本傑作集』（坪内・渥美 1922）には、一篇の歌舞伎台本「杜若艶色紫（かきつばたいろもえどぞめ）」が所収されており、解題には次のような文がしたためられている。

『杜若艶色紫』は、文化12年5月の河原崎座に上演した世話物で南北<sup>1</sup>が61歳の折の作です。『佐野次郎左衛門』の書替へで、五世半四郎の柄を見て書いた土手のお六が非常な好評であつたのと、短い割りに多くの俳優が使へるやうに出来てゐる為とで、後年も度々上演<sup>2</sup>されたものです。文政11年、岩井桑三郎（六世半四郎）の名前で、実は一筆庵が代作の『杜若紫再咲（かきつばたゆかりのにどさき）』という草双紙が発行されました。それは本台本のトガギを地の文章に引直したものに過ぎないのですが、それが非常に行はれたのを見ても、此狂言が江戸人に歓迎されたことがわかります。本編の底本としたのは、帝国図書館所蔵の2冊の写本でした。参考にする別本は、草双紙以外には、一も見当りませんでした。

尚、「杜若艶色紫」は『大南北全集』（鶴屋南北1925）にも所収されており、『歌舞伎脚本傑作集』および『大南北全集』はいずれも近代デジタルライブラリーに

て閲覧可能である。

《杜若艶色紫》の序幕は見世物小屋に設定されており<sup>3</sup>、序幕のト書きは次のようにしたためられている。

本舞台三間の間、正面、蛇娘の看板懸し見世物小屋。布まぜのまく、木戸前よろしく、三右衛門木戸番、上の方軽業の高小屋、玉本小三丈、ひるきよりと、柿色白あがりの幟をたて、下の方茶見世楊枝場のうしろを見世、こゝに願哲、麻衣、深き菅笠、ゑりにつんぼといふ札を掛、敷ござの上にかねを打て居る。そばにづぶ六の三、おなじ古菅笠、こじきの形にてすわつて居る。丹治、壺本差、若とうのこしらへにて、せわ状箱を持、これを権平中間の形にて、奪いやつて居る。伴七、万八、見世物師の拵にて、このふたりをとめて居る。仕出し大ぜいたちかゝつて居る。すべてむこふ両国のてい。

興味深いことに、上記のト書きには「こゝに願哲、麻衣、深き菅笠、ゑりにつんぼといふ札を掛。敷ござの上にかねを打て居る」という件（くだり）が見られる。「つんぼといふ札」は「聾札（つんぼふだ）」の存在を窺わせるものであり、筆者らは聾札の実証を図るべく、聾札の図像資料の探索にあたった。

《杜若艶色紫》の初演（文化12年（1815年））の折には、《杜若艶色紫》の序幕の様子を描いた番付が配られた。これらのうち2枚が保存されており、いずれも襟に聾札（つんぼふだ）をかけている願哲が描かれている（図1、図2）。



図1 《杜若艶色紫》番付（辻形式）に見られる聾札を掛けた願哲<sup>4</sup>



図2 《杜若艶色紫》番付（絵本形式）に見られる聾札を掛けた願哲<sup>5</sup>

左記のト書きには「深き菅笠」という件が見られることより、図1の方がト書きの内容に忠実に描かれていることが窺われる。すなわち、「杜若艶色紫」の序幕より、江戸時代後期には聾札が存在したことが確証された。図1の聾札に見られる「不」という字は「ほ」の変体仮名である。ただ、「不」の濁点の有無に関する判別は困難であった。

尚、《杜若艶色紫》は現在も上演されているものの、聾札が用いられているかどうかは未確認であり、今後の課題の一つである。

## 2. 聾札

聾札の存在を窺わせる事例は江戸時代後期の浮世絵画家、大石真虎の伝記にも見られる（関根1925: 132, 末森2013）。

真虎後年耳を憂ひて聾となり、京の冷泉某卿に請うて「つんぼ」の三字を木札に書かしめ、之を胸間にかけて、市中を歩行せり。

高橋（2013）は明治時代前期に刊行された図解英和辞典諸本に見られる「聾」関連図像を網羅的に載録し、聾札を掛けた聾啞者像の事例を提示している（図3）。

図3に示された聾札の字はつぶれてはいるものの、向かって右側から左側に「つんぼ」と書かれている可能性が高いものと考えられる。

一方、歌舞伎《三人片輪》には、「おし」と書かれた札（「啞札（おしふだ）」）を身につけた歌舞伎俳優が登場する。これらは写真に収められている（図4）他、近代浮世絵にも収められている（図5）。

聾札と啞札がどのように使い分けられていたのかを窺わせる史料は管見の限り未見であり、今後の調査が望まれる。

一方、欧州にも聾札が描かれたものがある。フランスのある会社が1888年に諺シリーズの一つとして発行した広告カードには、轎車に乗って「SOURD et MUET（聾啞）」と書かれた札を首に掛けた人物が描かれている。カードには「Il n'est pire sourd que celui qui ne veut pas entendre（最初から聞かないと決めた人はどんなにうるさく言っても聞かないでしょう）」という諺がフランス語で書かれている。19世紀後期、フランスでは実際にこういう聾札を用いた乞食がいたことが窺われる史料である。

### 3. 偽聾

「杜若艶色紫」では願哲が聾札を用いている記述が見受けられるが、実は願哲は聾啞者ではなく、聾啞者のふりをしていただけに過ぎない設定になっている。すなわち、「杜若艶色紫」の序幕における描写は「偽聾（にせつんぼ・ぎろう）」である。昭和20年代後半に描かれた連載漫画『サザエさん』にも「偽聾」を描いたものが2件ある<sup>6</sup>（長谷川1994）（図7、図8）。

また、明治26年に刊行された『啞生同窓会報告』1号には、偽聾に関する小西氏（東京盲啞学校校長）の訓話が所収されており（東京盲啞学校啞生同窓会1893）、当時偽聾を語るものが少なくなかったことを窺わせる。

現在、筆者らは古代、中世、近世の資料における聾啞者を描いた図像を探し求



図3 「聾」『英語独学 通弁自在正則画引』（鳥井1887）



図4（左）五代目中村福助〔啞禿尾〕《船岡主馬屋敷》本郷座（1927）（中）三代目中村時蔵〔盲人半之丞〕《船岡主馬屋敷》本郷座（1927）（右）七代目坂東参津五郎〔聾太郎助〕《船岡主馬屋敷》帝国劇場（1920）（国立劇場蔵）



図5 「坂東三津五郎の三人片輪の啞」（山村1922）（個人蔵）

めているが、聾啞という身体表徴の不可視性より、探索は困難を極めている。一方、偽聾も決して稀な存在ではなかったものと考えられる。すなわち、偽聾に関

する史料考証を通して本物の聾啞者たちの様相を窺い知る可能性が新たに提示され得たものとも考えられる。



図6 Il n'est pire sourd que celui qui ne veut pas entendre (Non c'è peggior sordo di quello che non vuole sentire), (1888) Lit. Romanet & Cie., Paris Da una serie di 6 figurine.



図7 『サザエさん』

註

1. 四代目鶴屋南北 (1755-1829)。通称は大南北であり、一般的には、「鶴屋南北」または「南北」というときは、四代目のことをさす。
2. 「後年も度々上演された」内訳 (上演年および名題) は次の通りである。文化12年 (1815年) 5月 杜若艶色紫、文政9年 (1826年) 9月 杜若艶色紫、天保2年 (1831年) 7月 色操廉文月、天保11年 (1840年) 6月 達浴衣一対色揚、嘉永3年 (1850年) 5月 紫花色吉原、文久3年 (1863年) 5月 いろは攝女節用。
3. 《杜若艶色紫》の主要登場人物は、お六、八ッ橋、願哲、次郎左衛門、伝兵衛、小さん、金五郎の7人が挙げられている。



図8 『サザエさん』

4. 早稲田大学坪内博士記念演劇博物館ro22-00046-0013 [http://www.enpaku.waseda.ac.jp/db/epkbanzuke/shousai\\_b.php](http://www.enpaku.waseda.ac.jp/db/epkbanzuke/shousai_b.php) (2014年2月19日閲覧)
5. 早稲田大学坪内博士記念演劇博物館ro23-00001-0406 [http://www.enpaku.waseda.ac.jp/db/epkbanzuke/shousai\\_b.php](http://www.enpaku.waseda.ac.jp/db/epkbanzuke/shousai_b.php) (2014年2月19日閲覧)
6. 図7および図8は「いわゆる差別用語」のため、1994年版には所収されていない。この漫画が新聞に掲載された年月日は確認していないものの昭和20年代後半と考えられる。この漫画の掲載年月日の確認は今後の課題である。

#### 参考文献

- 長谷川町子1994『サザエさん』東京：朝日新聞社。  
 関根只誠（編）1925「大石真虎」『浮世絵百家伝』129-132, 東京: 六合館。  
 高橋和夫2013「明治時代初中期における図解英和辞典類の聾啞群像」『聾史会報』42号。  
 鳥井正之助1887『英語独学 通弁自在正則画引』京都市: 須原屋花説堂。  
 東京盲啞学校啞生同窓会1893「偽聾」『啞生同窓会報告』1。  
 坪内逍遙・渥美清太郎（編）1922「杜若艶色紫」『歌舞伎脚本傑作集』6, 429-570, 東京：春陽堂。  
 鶴屋南北1925『大南北全集』9, 269-422, 東京：春陽堂。  
 山村耕花1922《坂東三津五郎の三人片輪の啞》